

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4775560号
(P4775560)

(45) 発行日 平成23年9月21日 (2011. 9. 21)

(24) 登録日 平成23年7月8日 (2011. 7. 8)

(51) Int. Cl.

F 1

B 6 5 D 5/36 (2006. 01)

B 6 5 D 5/36 A

B 6 5 D 5/54 (2006. 01)

B 6 5 D 5/54 3 O 1 A

B 6 5 D 5/54 3 O 1 Q

請求項の数 1 (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2006-79214 (P2006-79214)
 (22) 出願日 平成18年3月22日 (2006. 3. 22)
 (65) 公開番号 特開2007-253984 (P2007-253984A)
 (43) 公開日 平成19年10月4日 (2007. 10. 4)
 審査請求日 平成20年10月31日 (2008. 10. 31)

(73) 特許権者 000002897
 大日本印刷株式会社
 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
 (74) 代理人 100096600
 弁理士 土井 育郎
 (72) 発明者 小林 泰一郎
 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
 大日本印刷株式会社内

審査官 会田 博行

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 紙カートン

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

厚紙を打ち抜いたブランクを組み立てて形成され、前面パネルと背面パネルとそれらの両側にそれぞれ位置する側面パネルとにより胴部が形成され、各側面パネルの下辺に連設した下側折込みフラップをそれぞれ折り込んでから、前面パネルと背面パネルの下辺にそれぞれ連設した底面パネルを順次折り曲げて貼り合わせることで底部が形成され、内容物を投入した後で、各側面パネルの上辺に連設した上側折込みフラップをそれぞれ折り込んでから、背面パネルの上辺に連設した上面パネルとその先端辺に連設した先端折曲げフラップとにより蓋がされてなる直方体形状の紙カートンであって、一方の底面パネルが底部と略同じサイズでもう一方の底面パネルの外側に位置しており、その外側の底面パネルには先端部の中央に摘み部が区画されるとともに、その摘み部から末広がり状態で両側縁に至る破断用の一対のミシン目が形成されており、外側の底面パネルは摘み部の両側で且つ破断用のミシン目より外側にある2つの領域のところでは内側の底面パネルと接着されており、さらに、胴部にはそれを周回する状態で一対の平行なミシン目からなる開封用のジッパー部が形成され、そのジッパー部の先端縁が位置する貼り合わせコーナー部に紡錘形状の凹部が形成されており、先端折曲げフラップにはそれを横断する状態で一対の平行なミシン目からなる開封用のジッパー部が形成され、先端折曲げフラップがそのジッパー部より先端寄りのところで前面パネルのジッパー部より上方に貼り合わせることで蓋がされていることを特徴とする紙カートン。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、厚紙からなる紙カーターの技術分野に属し、特に、各種医薬品や各種ドリンク剤などを箱詰めして供給するために用いられている直方体形状の紙カーターに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来より、この種の紙カーターとして、コートボール紙や段ボールなどの厚紙を用いた直方体形状の紙カーターが広く利用されている。このような紙カーターは、開封してもしっかりとしているので、内容物を小出して使用するには好都合であるが、使用後に廃棄処理する際に、糊代部分を剥がして折り畳もうとすると簡単には分解できない。そこで、糊代片を引き剥がすような煩雑な作業を不要として簡単に押しつぶすことができるようにしたものが提案されている。

10

【特許文献1】特開2001-31069号公報

【0003】

この特許文献1に記載の紙カーターは、周壁にわたって形成された一対の切り裂き用ミシン目に沿って切り裂くことにより、上方半部と下方半部に二分割することができるタイプのカーターにおいて、上方半部の側板或いは下方半部の側板を内方に押し倒すことにより、正面板と背面板をそれらの四隅から45度の角度で延びる折り目に沿って簡単に折り曲げることができるようにしたものである。

20

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

上記した特許文献1に記載の紙カーターは、確かに糊代片を引き剥がすような煩雑な作業が不要となり、簡単に押しつぶすことができるものではあるが、あくまでも上下に二分割して開封するタイプの紙カーターを対象としたものであって、例えば、上面パネルを開封するようにしたタイプの紙カーターには適用できない。また、使用形態に応じて上下に二分割したり上面パネルを開けたりできるようにしたタイプの紙カーターに適用するには中途半端である。すなわち、上面パネルを開けて使用した場合には、使用後の紙カーターを上下に二分割してから押し潰す必要がある。

30

【0005】

本発明は、このような問題点に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、上面パネルを開けて使用できるタイプでありながら、使用後に簡単に解体して平坦な形状にすることができる紙カーターを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の紙カーターは、厚紙を打ち抜いたブランクを組み立てて形成され、前面パネルと背面パネルとそれらの両側にそれぞれ位置する側面パネルとにより胴部が形成され、各側面パネルの下辺に連設した下側折込みフラップをそれぞれ折り込んでから、前面パネルと背面パネルの下辺にそれぞれ連設した底面パネルを順次折り曲げて貼り合わせることで底部が形成され、内容物を投入した後で、各側面パネルの上辺に連設した上側折込みフラップをそれぞれ折り込んでから、背面パネルの上辺に連設した上面パネルとその先端辺に連設した先端折曲げフラップとにより蓋がされてなる直方体形状の紙カーターであって、一方の底面パネルが底部と略同じサイズでもう一方の底面パネルの外側に位置しており、その外側の底面パネルには先端部の中央に摘み部が区画されるとともに、その摘み部から末広がり状態で両側縁に至る破断用の一対のミシン目が形成されており、外側の底面パネルは摘み部の両側で且つ破断用のミシン目より外側にある2つの領域のところで内側の底面パネルと接着されており、さらに、胴部にはそれを周回する状態で一対の平行なミシン目からなる開封用のジッパー部が形成され、そのジッパー部の先端縁が位置する貼り合わせコーナー部に紡錘形状の凹部が形成されており、先端折曲げフラップにはそれを横断す

40

50

る状態で一对の平行なミシン目からなる開封用のジッパー部が形成され、先端折曲げフラップがそのジッパー部より先端寄りのところで前面パネルのジッパー部より上方に貼り合わせることで蓋がされていることを特徴としている。

【発明の効果】

【0009】

本発明の紙カートンは、上面パネルを蓋として使用した後に、底部にある摘み部を引っ張って破断用のミシン目を引き裂くと、底面パネルが分断されて底部が開いた状態になり、サック貼り状態と同じように折り畳むことができるので、簡単に解体して平坦な形状にすることができる。また、上面パネルを蓋として残した状態で使用することも、上半分を切り離して使用することもでき、いずれの形態で使用した場合でも、使用後は底部を開いた状態にすることで簡単に平坦な形状にすることができる。さらに、先端折曲げフラップを前面パネルの上部に貼り合わせたことにより、バージン性を有するものとなり、しかも、胴部を周回するジッパー部に加えて先端折曲げフラップを横断するジッパー部を設けたことにより、蓋を残す場合と上半分を切り離す場合の選択が一目瞭然となる。

10

【発明を実施するための最良の形態】

【0012】

次に、本発明の実施の形態について図面を参照しながら詳細に説明する。

【0013】

図1は本発明に係る紙カートンの一例を斜め上方から見た状態で示す斜視図、図2は同じく斜め下方から見た状態で示す斜視図、図3は図1及び図2の紙カートンを形成するブランクの平面図である。

20

【0014】

図1及び図2に示す紙カートンAは例えば医薬品を収納して病院に供給するためのもので、外観は直方体形状であり、図3に示すブランクBを組み立てて作製される。

【0015】

ブランクBは、紙カートン用の板紙を打ち抜いて形成したもので、図示のように、折線a, b, c, dを介して糊代フラップ11、背面パネル12、側面パネル13、前面パネル14、側面パネル15が順次連設されている。背面パネル12の下辺には折線eを介して底面パネル16が連設され、上辺には折線fを介して上面パネル17が連設され、さらにその上面パネル17の先端辺には折線gを介して先端折曲げフラップ18が連設されており、側面パネル13の下辺には折線hを介して下側折込みフラップ19が連設され、上辺には折線iを介して上側折込みフラップ20が連設されており、前面パネル14の下辺には折線jを介して底面パネル21が連設されており、側面パネル15の下辺には折線kを介して下側折込みフラップ22が連設され、上辺には折線lを介して上側折込みフラップ23が連設されている。

30

【0016】

ここで、前面パネル14に連設する底面パネル21は、底部を形成する際に外側に位置するパネルで、その幅が底部と同じか若干狭くなっており、背面パネル12に連設する底面パネル16は、底部を形成する際に内側に位置するパネルで、その幅が底部の幅の2/3程度になっている。そして、外側の底面パネル21には、先端部の中央に端縁から内側に延びる一对のミシン目αにより摘み部21aが区画されるとともに、その摘み部21aを区画する一对のミシン目αから末広がり状態で両側縁に至る破断用の一对のミシン目βが形成されている。このうちミシン目βは、図示のように連続する「一方の先の曲がったく」の字」状の切込みにより形成されている。

40

【0017】

そして、横に連設した糊代フラップ11、背面パネル12、側面パネル13、前面パネル14及び側面パネル15には、それらの中程を横断する位置に一对の平行なミシン目からなる帯状のジッパー部24が形成されている。また、先端折曲げフラップ18には、その中程を横断する位置に一对の平行なミシン目からなる帯状のジッパー部25が形成されている。これらのジッパー部24, 25を区画するミシン目は、図示のように連続する

50

「くの字」状の切込みにより形成されている。

【 0 0 1 8 】

このブランク B は、糊代フラップ 1 1 の表側を側面パネル 1 5 の端部裏側に貼り合わせたサック貼り状態で折り畳まれる。そして、この折り畳んだブランク B を紙カートン A に組み立てるには、まず、折り畳んだブランク B を角筒状に起こした後、各側面パネル 1 3 , 1 5 の下辺に連設した下側折込みフラップ 1 9 , 2 2 を折り込んでから、底面パネル 1 6 , 2 1 をこの順で折り曲げて貼り合わせることで底部を形成する。この時、外側の底面パネル 2 1 を、摘み部 2 1 a の両側で且つ破断用のミシン目 β より外側にある 2 つの領域 2 1 b のところで内側の底面パネル 1 6 と接着するように、底面パネル 1 6 の貼着部 1 6 a のところに糊を塗布して貼り合わせる。

10

【 0 0 1 9 】

このように底部を形成した後、上方から内容物を投入する。次いで、各側面パネル 1 3 , 1 5 の上辺に連設した上側折込みフラップ 2 0 , 2 3 をそれぞれ折り込んでから、背面パネル 1 2 の上辺に連設した上面パネル 1 7 とその先端辺に連設した先端折曲げフラップ 1 8 とにより蓋をする。この時、前面パネル 1 4 のジッパー部 2 4 より少し上方の帯状部分を貼着部 1 4 a とし、そこに糊を塗布して、先端折曲げフラップ 1 8 のジッパー部 2 5 より先端寄りの裏側をこの貼着部 1 4 a に貼り合わせる。このようにして図 1 及び図 2 に示す内容物が入った紙カートン A が作製される。

【 0 0 2 0 】

この紙カートン A は、上段のジッパー部 2 5 を取り除き、図 4 に示すように上面パネル 1 7 を蓋として残した状態で使用することができる。この時、先端折曲げフラップ 1 8 の先端部分 1 8 a は前面パネル 1 4 の貼着部 1 4 a に付いたままの状態になり、根元部分 1 8 b は蓋を開閉する時の差込みフラップの役目を果たす。また、下段のジッパー部 2 4 を取り除き、図 5 に示すように上半分を切り離すことで単なる箱として使用することもできる。そして、いずれの形態で使用した場合でも、使用後は底部にある摘み部 2 1 a を引っ張ってミシン目 α とそれに続く破断用のミシン目 β を引き裂くことで簡単に平坦な形状にすることができる。

20

【 0 0 2 1 】

すなわち、図 4 に示す形態のものは、底部にある摘み部 2 1 a を引っ張って破断用のミシン目 β を引き裂くことにより、底面パネル 2 1 が分断され、ミシン目 β より外側にある 2 つの領域 2 1 b が底面パネル 1 6 に付いた状態で底部が開いた状態になるので、図 6 に示すように、組立前のサック貼り状態と同じように折り畳むことができる。この時、サック貼り時の折癖が付いているので、簡単に平坦な状態にすることができる。

30

【 0 0 2 2 】

また、図 5 に示す形態のものも、底部にある摘み部 2 1 a を引っ張って破断用のミシン目 β を引き裂くことにより、底面パネル 2 1 が分断され、ミシン目 β より外側にある 2 つの領域 2 1 b が底面パネル 1 6 に付いた状態で底部が開いた状態になるので、図 7 に示すように、サック貼り状態と同じように折り畳むことができる。この時、サック貼り時の折癖が付いているので、簡単に平坦な状態にすることができる。なお、上半分もサック貼り状態と同じように折り畳めることは言うまでもない。

40

【 0 0 2 3 】

以上、本発明の実施の形態について詳細に説明してきたが、本発明による紙カートンは、上記実施の形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲において種々の変更が可能であることは当然のことである。

【 0 0 2 5 】

また、紙カートンを構成する厚紙は、紙カートン用の板紙に限るものではなく、段ボールでもよいものであり、各種の厚紙の中から用途に応じて適宜選択すればよい。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 2 6 】

【図 1】本発明に係る紙カートンの一例を斜め上方から見た状態で示す斜視図である。

50

【図 2】本発明に係る紙カートの一例を斜め下方から見た状態を示す斜視図である。

【図 3】図 1 及び図 2 の紙カートを形成するブランクの平面図である。

【図 4】紙カートの上面パネルを蓋として残した状態を示す斜視図である。

【図 5】紙カートの上半分を切り離した状態を示す斜視図である。

【図 6】図 4 の紙カートを解体した状態を示す平面図である。

【図 7】図 5 の紙カートの下半分を解体した状態を示す平面図である。

【符号の説明】

【 0 0 2 7 】

A 紙カート

B ブランク

a ~ 1 折線

α , β ミシン目

1 1 糊代フラップ

1 2 背面パネル

1 3 側面パネル

1 4 前面パネル

1 4 a 貼着部

1 5 側面パネル

1 6 底面パネル

1 6 a 貼着部

1 7 上面パネル

1 8 先端折曲げフラップ

1 8 a 先端部分

1 8 b 根元部分

1 9 下側折込みフラップ

2 0 上側折込みフラップ

2 1 底面パネル

2 1 a 摘み部

2 2 下側折込みフラップ

2 3 上側折込みフラップ

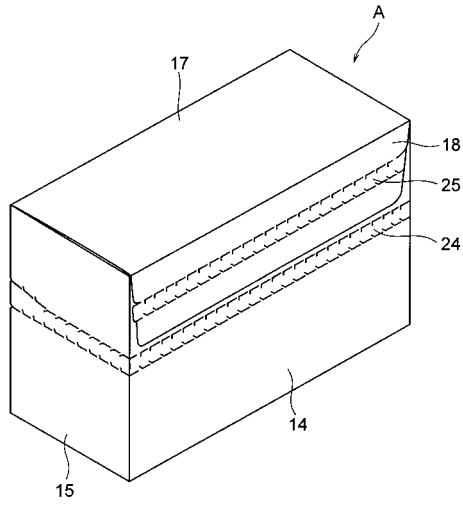
2 4 , 2 5 ジッパー部

10

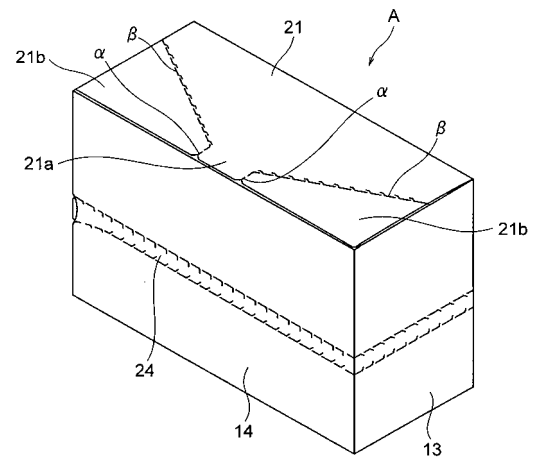
20

30

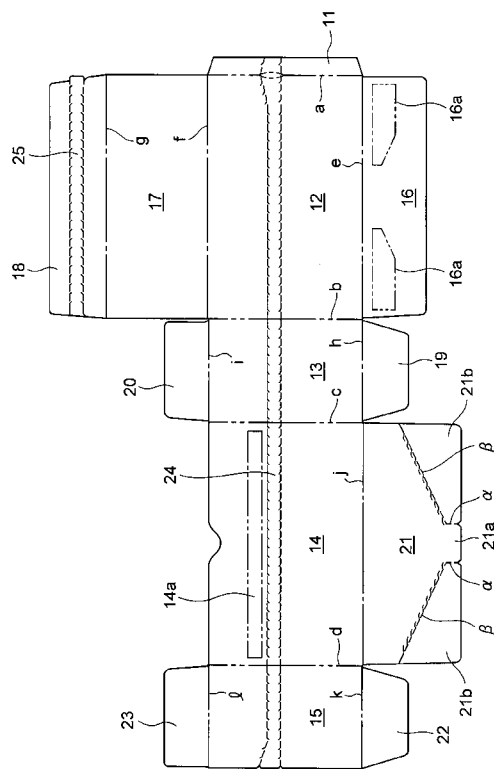
【図 1】



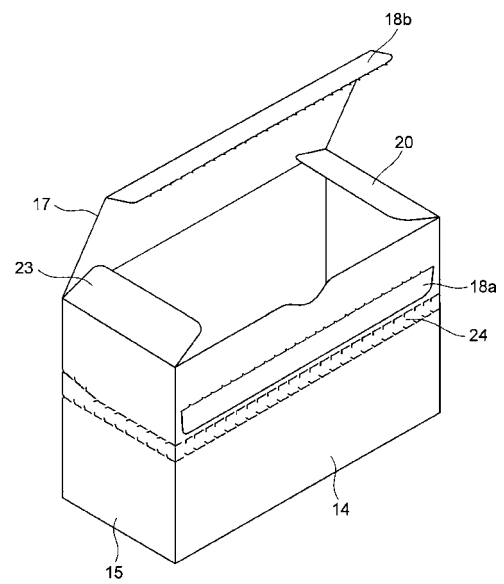
【図 2】



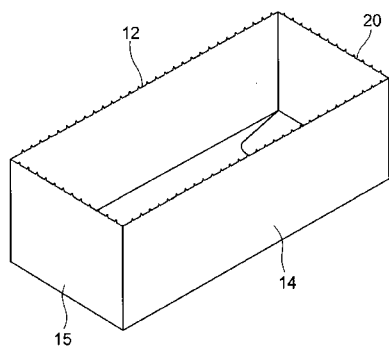
【図 3】



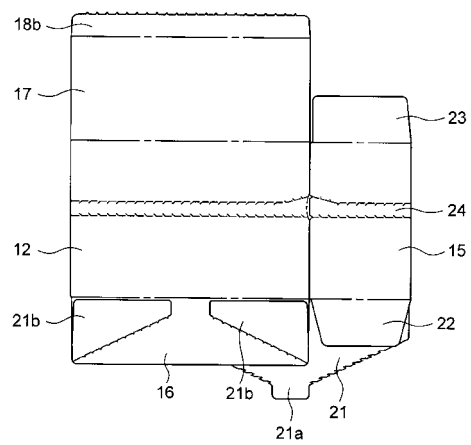
【図 4】



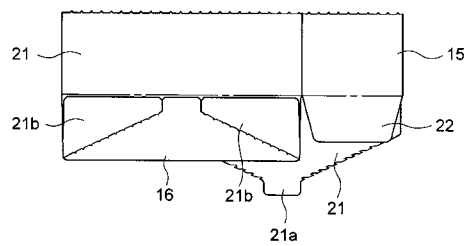
【図 5】



【図 6】



【図 7】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開平03 - 081819 (JP, U)
特開2001 - 031069 (JP, A)
実公昭26 - 010382 (JP, Y1)
特開2005 - 104528 (JP, A)
特開平09 - 193925 (JP, A)
特開2000 - 185732 (JP, A)
特開2000 - 153829 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B65D 5 / 00